

# シギやチドリは干潟の餌が多いところに集まる？

守屋年史

(バードリサーチ)

干潟を採食地として利用するシギ・チドリ類は干潟の生態系において上位に位置し、また個体数の把握も比較的おこないやすいため、干潟環境の指標として利用しやすいと考えられる。しかしながら、渡りの中継地として主に利用される日本の干潟では、シギ・チドリ類の種数や個体数は干潟生態系の豊かさを反映しているのだろうか。



今回は、シギ・チドリ類の種数や個体数の多い干潟とはどのような干潟なのかを解明する手がかりを得るため、渡り期に三番瀬（千葉県市川市）干潟の一部に調査区を設定し、餌動物に注目して干潟におけるシギ・チドリ類と底生生物の分布について調査をおこない、底生生物の分布がシギ・チドリ類の分布にどのような影響を与えているか考察した。

## ○底生生物の分布

シギ・チドリ類の餌となる底生生物として、ゴカイ類や貝類、カニ類などが採集された。底生生物の分布はゴカイ類・カニ類は陸に近い側で個体数が多い傾向があり、二枚貝類は沖側で個体数が多い傾向があった。底生生物の分布は底質や地盤高による海水に水没する時間などの干潟の微環境に関連しており、これにより調査地の干潟全体における餌動物の頻度分布を推測した。

## ○シギ・チドリ類の分布

調査地内で確認された、ハマシギ、ミユビシギ、ミヤコドリ、トウネン、ダイゼン、メダイチドリ、シロチドリ、キアシシギ、キョウジョシギ、オオソリハシシギについて、時間ごとの干潟での分布を調査した。また、調査地内での採食行動を観察し餌動物を記録した。

それぞれのシギ・チドリは主要な餌動物が異なっていた。シギ・チドリの分布には偏りがみられるが、必ずしも対象としている餌動物の頻度分布と一致しなかった。

干潟におけるシギ・チドリの分布は、餌動物の分布のほか、人の立ち入りや天敵による襲撃などの攪乱要素、潮汐、餌の発生のタイミングなどの影響も考えられ、それらの影響の可能性についても報告する。